横浜市立今井小学校
令和５年１月３１日
学校だより　２月号

今井小だより

学校教育目標　：　か　が　や　い　て　い　る　子　　「自分大好き！今井大好き！」

群青

学校長　松永　史郎

「群青」という合唱曲をご存じでしょうか。その歌詞の中に次のような一節があります。

「またね」と手を振るけど
明日も会えるのかな
遠ざかる　君の笑顔　今でも忘れない

この曲が生まれたのは、福島第一原子力発電所から半径２０km 圏内に位置する福島県南相馬市です。

南相馬の子どもたちが東日本大震災によって離ればなれになってしまった仲間を思って、つぶやいたり書き留めたりした言葉を、南相馬市立小高中学校の小田美樹先生がまとめて、曲をつけた作品だそうです。

その後、本格的な合唱曲に編曲され、今では全国の学校や合唱団で歌われるようになりました。

４年前、南区のある学校の副校長をしていたときのことです。卒業式で６年生がこの曲を歌うことになり、担任の先生が指揮をすることになりました。子どもたちの指導は音楽専科の先生が進めてくれていましたが、指揮法を教えてほしいということだったので、私も何回か卒業式の練習に参加していました。

卒業式も間近に迫ったある日のことです。その日の練習は卒業式全体の流れの確認でした。練習の中の「学校長の話」のところで、その日は校長先生が不在でしたので、担任の先生が代わりに壇上に上がりました。子どもたちへの注意事項を話すのかなぁと思っていたところ、全く違う話が始まりました。（以下その話の内容です。）

「私は、兵庫県の神戸市というところで生まれ育ちました。私が小学生だったある年の１月１７日、神戸の街を大きな地震が襲いました。阪神淡路大震災です。もう二十年以上も前のことですが、知っている人もいるかもしれません。その日を境にして、小学生だった私の生活は全く変わってしまいました。幸い私の家も家族も無事だったのですが、その日から学校は休みになり、しばらくの間学校に通えなくなりました。毎日楽しくお友達と遊んだりおしゃべりしたりしていたことが突然できなくなってしまったのです。

学校が再開してしばらくぶりに学校に行くと、友達がいるはずの座席がいくつも空席になっています。地震で亡くなってしまった友達やけがをしてしまった友達、家がつぶされて引っ越してしまった友達もいることがわかりました。当たり前だと思っていた普通の毎日が、あの日を境に全く変わってしまったことを改めて知らされました。

『群青』の歌を聴くと、あの頃のことを思い出します。そして、みなさんにも「当たり前」と思っている毎日が本当はそうではなくて、とても大切な時間だということを覚えていてほしいと思います。卒業まで友達と過ごす「今」という時間を大切にしてください。」

話を聞いていた６年生はしーんと静まり返っていました。その場にいた私もすぐに言葉を出すことができませんでした。

阪神淡路大震災が起きてから２８年の月日が過ぎました。また３月１１日には東日本大震災から１２年目の祈りの日を迎えます。私はあの話を聞いた日から、「当たり前と思っている毎日が本当は当たり前ではない」ということを心の片隅に置いて「一日一日を大切に」ということを子どもたちに伝えていかねばならないと思うようになりました。大きな災害などあってほしくありませんが、真摯に毎日を生きることが私たちに求められているような気がするからです。

皆様には、年度末の教育活動へのご理解・ご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

※「群青」の演奏は「群青　合唱」で検索すると動画などを視聴できます。